

## 「人格障害？」

福岡産業保健総合支援センター

相談員（アドバイザー産業医） 藤代 一也

最近、いやな事件が多い。列車の中での通り魔とか、ちょっと前には歩行者天国での暴走なんかもあった。そういう事件があると、専門家のコメントに人格障害という言葉が出てくることが多いが、これが難しい。

人格障害という言葉が使われるようになったのは、1980年にアメリカの精神医学会が作ったDSM-3という分類基準からと聞いているが、それ以前にも人格という言葉はあったし、似たような言葉で性格とか気質というのもあって、非常に分かりにくいのである。そこで、忘れちゃならないのがカーンバーグで、実証研究に基づいて1970年代には境界人格構造論を発表している。彼は、同一性、現実検討能力、防衛機制という3つの要素によってすべての人格は神経症人格構造、境界人格構造、精神病人格構造という3つに分類できるとした。例えば、境界人格構造では同一性は薄らぎ、現実検討能力は維持されるけどストレスが加わると障害され原始的防衛機制が働き始めるとした。

この原始的防衛機制には、目の前の現実が見えていても無視するとか、極端に相手を理想化するとか、自分の中にある良い部分と悪い部分が同時にあることが耐えられず、それぞれが別の物と見なす（スプリッティング）とかがあるという。最近、会社の中でも原始的防衛機制で逃げ出そうとする者が目につくのだが、気のせいだろうか？